

令和5年 飯田市教育委員会2月定例会会議録

令和5年2月10日（金） 午後 3時00分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	三浦 弥生
教育委員	上河内 陽子

【欠席委員】

教育委員	野澤 稔弘
------	-------

【出席職員】

参与	松下 徹
学校教育課長	桑原 隆
学校教育専門幹	今井 栄浩
生涯学習・スポーツ課長	伊藤 弘
文化財保護活用課長兼考古博物館長	宮下 利彦
文化会館館長	下井 善彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長兼歴史研究所副所長	牧内 功
共同学校事務室統括室長（旭ヶ丘中学校）	佐々木 昇一
学校教育課長補佐兼総務係長	櫻井 英人

日程第1 開 会

○教育長（熊谷邦千加） それでは、ただいまより令和5年2月教育委員会定例会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

日程第2 会期の決定

○教育長（熊谷邦千加） 日程第2、会期の決定。2月定例会の会期を本日1日とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） お認めいただいて、ありがとうございます。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（熊谷邦千加） 日程第3、会議録署名委員の指名。会議録署名委員を三浦弥生教育委員さんをお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

◇教育委員（三浦弥生） はい、お願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、よろしくお願いいたします。

日程第4 会議録の承認

○教育長（熊谷邦千加） 日程第4、会議録の承認。1月定例会の会議録をご確認ください。何かご意見がありましたらお願いをいたします。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。承認いただきました。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程第5、教育長報告事項。

それでは、別紙をご覧くださいと思います。

2月も様々な会議に出させていただいて、その一部を報告します。

1月18日に県の教育行政懇談会というので、長野市の市町村教育連絡協議会の中で内堀県教育長さんのお話をお聞きすることがありました。県のほうでは、不登校特例校と夜間

中学について検討を始めるというお話でありました。そういう中に飯田下伊那の小さな学校も関係するんですが、複式学級の解消がいいのか、そうではなくて複式で異学年の学びにつなげたほうがいいのかということについてのお話もございました。

それから、部活動の地域移行については、県もこれから3月くらいまでには協議会を立ち上げ、7月まで3回の協議会を実施する予定だということでもあります。また、お読みいただければと思います。

それから1月23日は、飯伊地区のジュニア期のスポーツ活動検討委員会が飯田合庁で行われました。

いろいろな確認がされたわけですが、来年度の新人戦以後の休日に試合、あるいは記録会形式を主とした体験会というのを行って、考えてくれる小委員会では、「新人戦とかでチームとしてレギュラーでなくて出られなかった子たちにもそういう体験会、試合形式の中で楽しんでやれるようなスポーツの楽しみを味わえるような会にしたい」というようなお話がありました。一方で、いろいろなメニューを揃えるのですけれど、そこになかなか子どもたちがすぐ参加するのはたくさんいるかっていうと、そうではないってということについての課題も確認したところであります。

3番目の、スポーツ推進審議会の中では、やはり「この地域移行について、保護者の実態把握だとか保護者の理解はまだまだ十分ではないのじゃないか」というご意見もいただきました。

同じく「やらまいか松尾懇談会」でも、部活動の地域移行の話題がございましたが、私も出席させていただいて、実際に保護者の声をお聞きすると、「来年からもうクラブチームから出れるから、部活動に入ったほうがいいのか、クラブチームに入ったほうがと迷っている」というようなお声もあったりして、やはりこれも前からこの中で話題になっていますが、どう保護者の皆さんにお伝えをし、理解を深めていくかということがやはり課題かなあと思っています。

それから6番目、飯田高校の理数科課題研究発表会に行ってまいりました。

9つのグループがそこにある、私も初めて知るような「安息角の測定と性質」とか「三角関数の空白域」とかそういった難しいものから、「エタノールの殺菌効果」というような身近なものまで課題発表がありました。二年生を中心に発表して、一年生がそれに対して質問をしていました。普通科のほうでは探究的な学びが始まったところだということ、これからどんな学びになるのか期待をしたいなあと思いました。

あとは伊那谷研究団体のシンポジウムにも参加させていただきました。またお読みいた

できればというふうに思います。

私からの報告は以上でございます。

何かご質問、ご意見ありましたら。

(発言する者なし)

○教育長（熊谷邦千加） よろしいですか。ありがとうございます。

日程第6 議案審議（4件）

○教育長（熊谷邦千加） それでは続きまして、日程第6、議案の審議に入ります。

本日は4つの議案についてご審議をいただきます。

議案第5号 令和4年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について

○教育長（熊谷邦千加） 最初に、議案第5号、「令和4年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について」。

桑原学校教育課長。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは、議案第5号、「令和4年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」お願いをいたします。

認定対象者につきましては、別紙でご用意をさせていただいたとおりでございます。

それぞれ記載をいたしました認定要件にて、ご認定くださいますようご提案申し上げます。

よろしくお願いたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ただいま説明のありました議案第5号につきまして、ご審議をいただきます。

ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

(「ありません」との声あり)

○教育長（熊谷邦千加） では、お認めいただいたということでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

議案第6号 飯田市人権教育推進協議会規則を廃止する規則の制定について

議案第7号 飯田市人権尊重推進協議会規程を廃止する訓令の制定について

○教育長（熊谷邦千加）　続きまして、議案第6号、「飯田市人権教育推進協議会規則を廃止する規則の制定について」、もう一つ、議案第7号、「飯田市人権尊重推進協議会規程を廃止する訓令の制定について」、関連する内容ですので、説明を併せて行っていただいた後にそれぞれご審議をいただきたいと思います。

それでは、伊藤生涯学習・スポーツ課長お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤　弘）　それでは、資料5ページをお願いいたします。

議案第6号につきましては、飯田市人権教育推進協議会規則を廃止する規則の制定についてでございます。

人権推進協議会につきましては、人権教育の推進に必要な事項を協議するという役割を担ってきておりますが、この機能を飯田市の人権尊重推進審議会に包含することによって、この推進協議会の設置を規定する規則を廃止したいとするものでございます。

附則につきましては、施行期日を令和5年4月1日と定めたいとするものですが、おめくりいただいて、飯田市の人権に関する組織体制や今回廃止を提案する理由等について説明をさせていただきます。7ページをご覧くださいと思います。

飯田市では、左の上にありますように、「差別の撤廃と人権の尊重に関する条例」に基づきまして、飯田市人権尊重推進審議会というものを設置しております。人権教育や人権啓発の推進など、市が行うべき施策に関する調査審議を役割としております。

それから、今回の議案に関係しますのが、右側、人権教育推進協議会でございますが、これにつきましては、規則に基づき設置をしておりますが、左側の人権尊重審議会の答申に応じた人権教育推進施策について協議するという役割でございます。

人権推進協議会につきましては、四角の囲みの一番下に書いてございますけれども、25年度以降開催がされてきておりません。現在では、人権尊重推進審議会に人権教育の担当職員も出席をしながら、人権教育施策に関する協議も行われておりまして、そういった意味から人権尊重推進審議会に機能を包含することで、これまでに人権教育推進協議会が担ってきた役割が十分果たせると考えております。

下段の中央をご覧くださいと思いますが、それぞれ審議会・協議会の構成メンバーを記載しておりますけれども、1番から6番までの団体は、それぞれ両方に委員を選出いただいているということもございまして、そういった団体の負担を考えますと、合理化を図っていくことが必要だろうということも一つでございます。

本年の1月に、左側にあります人権尊重推進審議会が開催され、同じようにこの機能を統合することについてご意見を伺っておりますけれども、それぞれそういった方向につい

てご了解をいただいておりますので、そういったことで併せて、こちらの飯田市の教育委員会の規則を廃止するという形の規則を制定したいというものでございます。

続きまして、8ページをお願いいたします。

ただいま説明した内容について、来年度以降どんな形になるのかということで、人権尊重推進審議会の一本化した後の内容を記載しておりますけれども、囲みの中の下側に10番、長野地方法務局飯田支局、この団体は人権尊重人権擁護委員さんの事務を所管する機能を持っておりますけれども、これまで協議会に参加していただいておりますが、来年度からは審議会のほうに入っていただく予定でございます。

また、11番の南信教育事務所飯田事務所につきましては、来年度新規ということで加わっていただく予定でございます。

それでは、資料6ページにお戻りいただきたいと思っております。

議案第7号につきましては、飯田市人権尊重推進協議会規程を廃止する訓令の制定についてでございますが、この人権尊重推進協議会につきましては、人権の尊重の推進に関する施策を円滑に進めるための庁内的な組織でございます。総合的な企画及び調整に関する事務を司るということで、そういった機能を持っているわけですが、この形態につきましては、事務局が市民協働環境部の共生・協働推進課が担ってきておりますけれども、人権教育との関わりも大きくあるということから、この規程についても教育委員会の訓令としてこれまで定められているものでございます。

提案理由でございますけれども、改めてこの庁内的な人権尊重推進協議会を開催しなくても、先ほど申し上げた共生・協働推進課、あと教育委員会の生涯学習・スポーツ課が窓口として、必要に応じて庁内協議に付しながら、人権尊重に関する施策を進めることができるという考え方から、今回規程を廃止したいとするものでございます。

説明は以上でございます。よろしくをお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

それでは、ただいま説明のありました、議案第6号、飯田市人権教育推進協議会規則を廃止する規則の制定について、ご質問、ご意見がありましたらお願いをいたします。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） お認めいただいたということで、ありがとうございました。

続きまして、議案第7号、飯田市人権尊重推進協議会規程を廃止する訓令の制定について、ご審議いただきます。

ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長（熊谷邦千加） お認めいただいたということで、ありがとうございました。

議案第8号 飯田市教育功労者表彰者の決定について

○教育長（熊谷邦千加） それでは、議案第8号、「飯田市教育功労者表彰者の決定について」。

伊藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） 資料12ページをお願いいたします。

議案第8号につきましては、教育功労者表彰者の決定について、教育功労者表彰規程に基づき表彰者を決定していただきたいというものでございます。

議案書に記載のとおり、2団体からご寄附をいただいております。表彰基準に照らして基準を満たしているために表彰者に決定したいと提案するものでございます。

小林工業様につきましては、市内の小学校にテントやポータブルブルーディスクドライブ等をご寄附いただいております。

飯田ライオンズクラブ様につきましては、スポーツ振興のためにということで、全市型競技別スポーツスクールで利用する弓道の道具であったり、バレーボール等のスポーツ用具をご寄附をいただいております。

表彰につきましては、小林工業様は、そういった表彰の機会はないということを聞いておりますが、飯田ライオンズクラブ様につきましては、3月の教育委員会定例会終了後に表彰の伝達を行いたいと思っております。

よろしくをお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ただいま説明のありました議案第8号につきまして、ご審議をいただきます。

ご質問、ご意見がありましたらお願いをいたします。

(「ありません」との声あり)

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございました。

お認めいただいたということで進めたいと思います。

日程第7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程第7、協議事項。協議事項は今回ございません。

日程第 8 陳情審議

○教育長（熊谷邦千加） 日程第 8、陳情審議。陳情審議は今回ございません。

日程第 9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、日程第 9、その他に入ります。

（1）教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （1）「教育委員報告事項」。

何か報告がございましたら、どなたからでも結構ですのでお願いします。

北澤正光職務代理。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 教育長報告事項に既にあることですが、一つ、ジュニア期のスポーツ活動のあり方検討会に教育長と一緒に出席しました。今回も 100 人を超える皆さんが参加をされて話が進んでいるというところ。それから、今までの反省で、保護者の方の理解をどう図っていくのかというのが一番大きな課題だということになって進んできていて、だんだん保護者の方の参加が増えてきている。しかも、各学校の P T A 会長さんのような方が増えてきているというのはありがたいことだと思います。

結局、学校側からとか教育委員会側から説明つというのではなくて、同じ P T A の保護者の方同士で説明がされて話が広がって、地域移行とか中学生の望ましいスポーツのあり方みたいなことが共有されていくというのが、一番いいことではないかと思っているので、これがさらに進んでいくといいと思いました。

それにあわせて、1 月 25 日に市町村教委の連絡協議会もあって、そこでも今、地域移行のことが懸案事項になっているのですけれど、来年度以降に向けて毎回の協議会のところで議題にしていくということと、飯田下伊那全体で足並みを揃えながら進めていきたいと思います。14 市町村それぞれバラバラではなくて、揃えて進めていきたいということではあるけれど、飯田下伊那地区は非常に広域なので、具体的に進めていくときには、北部地区と中部とそれから西南部というブロックに分かれて、具体的なことを協議してやれるところからやっていきたいと思いますという流れになっています。

その際、教育委員会、教育長や職務代理や教育委員会関係者だけが集まっても、現場の思いと離れた話が出てくるかもしれないので、中学校の校長先生方にも、各ブロックごとの会合のときに集まってもらって、中学校の実際の様子をお聞きしながら、できると

ころから進めていきたいと思いますというようなところまで確認がされて進んできています。

そうすることで、少しでも広域になる。それから、選べる種目が増える。指導者の確保もしやすくなるメリットがある反面、同じブロックとはいえども、若干移動しなければならないので、結局、送迎をどうするかというようなことが、今後大きな課題になってくるのではないかと考えています。

もう1点、これも教育長の報告事項の中に既にあることですが、教育長の資料でいくと5番です。下伊那教育会の教科等研究まとめの会に出させてもらいました。コロナで今まで中止になって全員揃うことをしないで中止になっていたものですが、今年は久々に集まって行った。コロナのことを教訓に、今後へ向けて開催方法の工夫がされました。全員が一堂に会することは止めて、しかも、主体的、対話的で深い学びを子どもたちに求めるのと同様に、先生方も12の会場に分散して、自分の行きたい教科や領域のところを自分で選んでそこに参加する。したがって、人数が絞られて、一会場の人数は分散するので、コロナ対応にもなっているし、それから自分が行きたい教科のところへ行って研修してくる。しかも、12会場がそれぞれ様々な企画をしているので、主体的に学ぶことを大事にしている。時代と共に変わっていく。ただ受け身で、研修があるから行くというのではなく、自分から求めて、自分の選んだ場所に行くという枠組になってきていて、コロナが逆に後押ししている。コロナをマイナスばかりに捉えるのではなくて、これをきっかけに模索していくことが大事だと思いました。以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

そのほか、いかがでしょうか。

上河内教育委員さん。

◇教育委員（上河内陽子） いろいろな意味で地域移行が進んでいるスポーツ、進めていかなければいけないスポーツの活動ですけれども、それ以外にも、中学生のためにいろいろご尽力いただいている方々がいると思います。

うちの娘は、『ジブン・チャレンジ』でいろいろなメニューがあるからやっごらん」と何度言っても、「行かない」と言っていたんですが、この頃、「美術学校に行きたい」というふうに言いました。それで、1回勧めても飛びついてこないけれども、用意して、環境を整えて待っていると、本人が「ああ、これやりたい」と思ったとき、そのときのために用意して下さっていたんだなということを実感し、今度の春から美博での中学生の美術学校があるということなので、参加できると思っています。そういった機会を、いつも準備して待って下さっている先生方や地域のスタッフの方々に、本当に感謝したいな

と思った次第です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、報告事項には載せなかったのですが、小学生、中学生が美術学校で作った作品を市民ギャラリーに飾ってあるのを見に行ってきました。今もやっていますね。いろんな取組や学校では十分にできないようなことで、あの中では楽しんでできるという良さがあると思います。

ありがとうございます。

ほかはよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

（2）参与報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは、続きまして「参与報告事項」。

◎参与（松下 徹） 特にございませぬ。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（3）学校教育課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして「学校教育課関係報告事項」。

最初に、令和4年度飯田市共同学校事務室の報告についてということでございますので、それでは佐々木統括室長さんのほうから説明をお願いします。

○共同学校事務室統括室長（佐々木昇一） よろしくお願ひいたします。

飯田市共同学校事務室統括室長の佐々木と申します。よろしくお願ひいたします。

資料は13ページからになります。

飯田市共同学校事務室は、学校事務の機能を強化して、学校運営の改善と学校教育の充実を図ることを目的に、飯田市共同学校事務室設置規則に基づいて、令和4年4月に発足しました。

目指す姿としては、先ほど言いましたように、事務機能を強化して、学校運営の改善と学校教育の充実を図るということを目指しております。

市内の28校を3つのグループに分けて、効率化できる業務を集中処理して効率化し、その浮いた分を学校運営のほうへ関わっていきましようということが目的になっております。

一気にここに行くには難しいということで、その下にあるステップ1、ステップ2、ステップ3ということで、段階を踏んで目指す姿に迫っていきましようということで、今年

度はステップ1、導入期として「適正化」、「効率化」とか「人材育成」ということをキーワードに業務を行ってきております。

実際にやった業務というのは、15ページからになります。

第一共同学校事務室は、上郷小学校を主な会場として、毎月1回参集し、このような業務を行ってきました。

第二共同学校事務室は、緑ヶ丘中学校を基本として、毎月1回参集し、このようなことをやってきました。

第三共同学校事務室については、旭ヶ丘中学校をベースとして、毎月1回、あるいは2回集まって、このようなことをやってきましたということを記載してあります。

それで、今年やってみての評価を、その室員の皆様方からいただきました。その結果が18ページ・19ページにグラフとして表わしてあります。

まず、「参集した処理が事務の適正化とか正確性の向上に役立っていますか」という設問に対しては、約4分の3の室員から「役立っている」という評価がされておりまして、「やや役立っている」というものも合わせると9割以上の室員から「役立っています」という評価が得られております。

それから、「現在行っている業務の参集処理が事務の効率化に結びついているか」ということについては、「結びついている」、「やや結びついている」という評価が4割くらい。「以前と変わらない」、「結びついていない」というのが半分以上あります。

この効率化という点については、今後一番のポイントになってくる点だと思いますので、令和5年度以降はこの効率化という点に重点を置いて取り入れる業務とか、その処理の方法の改善、検討をしてまいりたいと思います。

それから、3番目、「参集処理する中で、発生した事例や他校の事務処理方法を見ることに何か学ぶことはありましたか」ということで、ほとんどの室員から「ありました」という回答が得られております。

4番は省略します。

5番ですが、「発足初年度は原則月1回参集して処理を行っていますが、来年度業務を拡大し、月2回など参集頻度を増やすことについてはどう思いますか」ということについては、「増やすのが良い」というのが1割強、「必要な場合のみ増やすのが良い」ということが7割近くあります。

ここについては、来年度以降どういうふうに行っていったらいいかということについては、年度末の会議などで検討していく事項かなと思います。

それから 14 ページに戻っていただいて、下から 2 つ目の丸、兼務の発令というところですが、教員の場合とは異なって、学校事務職員の兼務というのは、共同学校事務室を設置している場合のみに発令されるということになっております。この兼務の発令については、飯田市も県のほうからやっていただいたんですが、やはり所属校の枠を越えて業務に当たるということについて、制度上の問題をクリアしただけでなく、室員が他校の事務処理に当たる意識の上でも大変有効であったと思います。急遽、長期の休暇に入ってしまった、補充が付かないという場合、それから何らかの理由で事務処理が滞ってしまっているというような場合に、急遽ほかの学校の事務職が行って、その学校の業務を支援するというところを行っておりますが、そういう面では非常に有効であったと考えております。

発足して 1 年目ですので、なかなか思うようにうまくいきませんが、今年出した課題を来年度生かして、また発展させていきたいなあと考えております。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、説明ありがとうございました。

このことにつきまして、ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

三浦委員さん、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） 初年度、こういった業務の改善に対して、いい結果が得られているというご報告をいただいたと思います。

学校訪問、南信教育事務所の主幹指導主事の先生と帯同させていただいたときに、事務の方に「こういったものはどうでしょうか」というお話をちょっと聞かせていただいたこともございました。「月に 1 回、学校を空けることに対しては周りの教職員の協力があります」というような、「協力してもらっているんで」というようなお話をいただいたのですが、これは学校も月 1 回離れることに対しては、離れていくこの学校側の先生方からは、これを 1 年間やるに当たって何か意見をもらったりだとか、何か情報が入ってきいたりとかいう、そういったことはありますでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 佐々木室長さん、お願いします。

○共同学校事務室統括室長（佐々木昇一） まだ全体としては、そういう学校職員からの評価というのはいただいております。

今後、今いただいたようなご意見をもとに、そういう方々にも評価していただくということは必要なあとというふうに考えております。

ありがとうございます。

◇教育委員（三浦弥生） はい、ありがとうございました。

○教育長（熊谷邦千加） よろしいですか。

◇教育委員（三浦弥生） はい。

○教育長（熊谷邦千加） ほかに。

上河内委員さん、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） 1年目ということで、いろいろ試行錯誤しながら進めてくださりありがとうございます。

18 ページの2番、「現在行っている業務の参集処理が事務の効率化に結びついていますか」というところで、以前と変わらないという方々が多いということです。「結びついている」と言っている方も2割いらっしゃるので、そういった事務の方々のメリットをフィードバックしていただいたりしながら、ぜひ効率化のほう重点的に進めていただければなあと思います。

おそらく小さい学校とか、大きい学校とか、そういった特徴によって、いろいろな課題があるのであろうと想像いたしますけれども、ぜひ進めていただけたらなあと思います。お願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） ほか、よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

このこと自体が、一番大事な適正化・正確性の向上というところには、かなり大きな影響を与えて良くなっているということは、非常に大きいことかなあというふうに思います。

また、先ほどお聞きした、滞っているところがそこに入れるってということは、それも効率化じゃないかなあと思ってお聞きしました。

ありがとうございました。

（4）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では続きまして、「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

伊藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） それでは資料20ページをお願いいたします。

部活動の地域移行を踏まえた中学生期のスポーツ・文化活動の環境の充実に向けた取組ということで、この資料は少し遡って国からで出たガイドライン等も記載をしておりますが、先ほど教育長さんから報告があった「やらまいか松尾地区」とかそういったところでも使った資料です。

この部分については、これまで教育委員さんと共有してきている部分でありますので、またご覧いただければと思いますけれど、特に松尾地区の場合は保護者の方も含めた参加でしたので、なぜこういった取組をしなきゃいけないかっていう背景みたいなところから説明をさせていただいて、大きな2番の飯田市のこれまでの取組ということも含めて説明をしております。

大きくは部活動の適正化ということで、子どもの成長に合わせた適正な時間を守ることであったり、一定の期間オフシーズンをつくるような取組であるとか、それから地域の中では文化系でも社会教育機関連携しながら、地域の公民館等で講座を提案したり全市型スポーツをやってきた。また、子どもたちの主体性という部分でいくと、筑波大学の協力も得ながら「ジブン・チャレンジ」の取組をしてきたというようなことを少し書いてあります。

21 ページの3番、5年度以降の取組についてということですがけれども、国のガイドラインに出ているとおり、今、学校での部活動をそのまま地域に移すっていう考え方ではなくて取り組んでいきたいと思えますし、これまでやってきた取組を大事にしながら、関係する皆さんと共有しながら進めていきたいという考え方です。

(1) 番に、その目指す姿というところで、「中学生がウェルビーイングを感じながら、地域の中でやりたいスポーツや文化芸術活動に挑戦できる場づくりを進めていく」という考え方を整理をして、進めていく上で大切にしたい取組と方向性ということで、いくつか記載をしてありますけれども、1番から5番まで、こういったことはこれまでやってきたところを継続する部分も含めて、進めていきたいということでもあります。

22 ページをご覧いただきたいと思えます。

県でも協議会の設置というお話がございましたが、これから飯田市もそれぞれどういう形で体制づくりを進めていくかという中で、学校、地域やスポーツ関係者、文化の関係の皆さんに集まっていただいて協議する場を設けていきたいということで、協議内容を2番に記載をしてありますけれども、まずは、なぜこういったことをやるのか、どういった目的でやるかっていうことを、しっかり共有を図りながら進めていきたいと思えます。

エリアのところは、先ほど北澤職務代理からもありましたけれども、ある程度広域的にやるものであったり、学校の単位でできるものであったり、いろいろあると思えます。

指導者の関係については、先生方の兼職・兼業もありますし、指導者の皆さんが学び続けてもらうような機会がつかれるか。また、子どもたちに関わるための一定の研修を受けるような、そういった仕組みが必要かどうか、そういったことも含めて検討をしていくと

ということで、イメージとしますと協議会全体で一本でありますけれども、スポーツと文化芸術関係は違う課題もありますので、それぞれ分かれて協議できるような組織体制をイメージをしております。

4番には、現状でのメンバーの構成案ということでありまして、この部分については「こういった方も入っていいんじゃない」というようなご意見ございましたら、またお聞かせいただければと思います。

5番はスケジュールでございますけれども、今年度内、それぞれの実態等も把握をしながら、来年度になったら会議を開催できるような形で今、考えております。

あと23ページ以降は、国が12月末に出した文化とスポーツを併せたガイドラインということでありまして、大きくは上の囲みの中で下から2行目の真ん中辺に「地域の子どもたちは学校を含めた地域で育てる」というキーワードで、「部活の地域移行」という言葉はすごくなくなってきています。

また、右側の3番のところの中段くらいですけれども、もともとは5年度から7年度までに改革集中期間でやりきるっていうものが、「まず進めながら地域の実情に合わせて、できるだけ早く体制づくりをしましょう」ということになってきております。

おめくりいただいたところは、国から出ている参考資料で、誰が運営主体になって運営するのかっていう、いくつかのパターンを国が示しているようなものでございます。

あと26ページにつきましては、今年度の「冬季ジブン・チャレンジ期間」の取組の内容を記載をしております。これまでご説明してきた部分でありますので、また資料をご覧くださいいただければと思います。

それから27・28につきましては、全市型スポーツスクールの状況でございますが、ちょっとお配りした資料、記述が漏れているものもございましたので、別紙でお配りしたものでご覧いただければと思いますが、「ジブン・チャレンジ期間」に限定して、スポーツスクールどのくらいの参加があるかっていうのを初めてちょっと整理をしてみました。

28ページにつきましては、これまでの累計参加者数を昨年度と比べた資料となっております。

あと29ページにつきましては、文化とか芸術の関係、「ジブン・チャレンジ期間」に提案をして、どのくらいの参加があったかということで、下の集計にありますように40人という数字でございます。

次のページに、昨年度の人数53人ということで、減っている状況がございますが、昨年度は地区の公民館等の地区を限定した活動に多くの生徒が出ていただいておりますが、今

年度なかなかそういったことが行われなかったということも含めて、これまでの今年度の取組、分析も記載をしてありますが。なお、文化系についても「ジブン・チャレンジ期間」だけではないという方向をこれからはいろんな試行をしていく必要があると思っておりますので、また教育委員の皆さんもお感じになっている点とかご提案をいただければありがたいなあと思います。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの報告事項につきまして、ご質問、ご意見お願いいたします。

北澤職務代理、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 2点あります。

22 ページの一番下の5番ですけれど、要はこの連携協議会を立ち上げて、着々と進めていくというところ、とても大事だと思うので、ぜひとも進めていっていただきたいと思えます。

もう1点は質問になるのですが、今年も「冬季ジブン・チャレンジ期間」が終わったところでまたアンケートなどをとられて、今までの意識の変化といったことを把握しながら進めていくという流れでよろしいでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 伊藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） これまで部活動アンケートということで継続しておりますので、これまでと経年で見るべきものは継続をしてみたいですし、特にこれまで地域移行の関係で、やっぱり生徒のニーズを聞く場所をつくったほうがいいんだろうっていうことで、今年度のアンケートの中ではそういったものを少し設問を増やしていくようなことで今、考えております。項目もこれからの地域移行を踏まえて見直しをかけながら、継続して実施してみたいです。

○教育長（熊谷邦千加） よろしいでしょうか。

◇教育長職務代理者（北澤正光） あとは併せてですけれども、今年これで3年丸々こういうような形が整ってやってきた。去年はコロナの影響が反映していましたが、今年例えば28ページのところの総計なんか見させていただくと、単純に数字のことだけ言っているわけではないのですが、参加者の数が増えてきているような状況が見えるのですが、まとめをされながら子どもたちの動きとか、参加の様子とか、事務局として感じていらっしゃる、感想のようなものはありますか。

○教育長（熊谷邦千加） 伊藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） 参加している生徒さんは、本当に学校が違っても楽し

く時間がかからないうちに打ち解けてやっている姿っていうのがあります。

なかなか、実は令和4年度も3年度が少なかったっていうことで、実はもう少し増やしたいっていう思いがあります。

今年度は、ビデオを学校で映像を流していただいたりいろいろなこともしましたけれども、もしできればやっぱりこれからのことを考えると、スポーツ団体の皆さんと校長会とも一緒に会議をやるようなことをしながら、少し生徒の背中を押せるような機会をすという。あわせて、今、協会のほうには、なかなかニーズをお届けしながらこういう準備ができないかっていうところがうまくできてないところもあるので、そういったところもしっかりこれまで努力してきた皆さんが「いつまで待ってもこんな」と言われんように少しそういったところを丁寧に対応していきたいなあというふうに思います。

○教育長（熊谷邦千加） ほかにございますか。

では三浦委員さん。

◇教育委員（三浦弥生） 集計していただいてありがとうございます。

こちら延べ人数ということで集計していただいてありますが、これは例えば実人員ということで、実際には何人の子どもたちが使っているのかということと、どこの中学校の子どもたちなのかということも、もし集計いただければありがたいなあ。

どうしても飯田市広域で地理的条件もあります。そういったときに、そういったところの子どもたちが使っているのか、または使っていないのかっていうところも、そんな統計からまたちょっと見てみたいなあと思います。もし可能であればお願いします。

○教育長（熊谷邦千加） 伊藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） 学校別とか実人数は毎年出しておりますので、年間出たところでまたご提示をしたいと思います。

やはり遠山中は、足のところがあって、参加がない中で1回出張型っていうのを試してきた経過がありますので、そういったデータがまとまった段階でまた提示をさせていただきたいと思います。

◇教育委員（三浦弥生） ありがとうございます。

とても興味ありますので、見させていただいてまた考えていきたいなあと思います。

ありがとうございます。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 若干加えてよろしいですか。

○教育長（熊谷邦千加） はい、どうぞ。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 今、伊藤課長さんがお話された体験型のところの、出張型の

ことについて、この間の飯田下伊那全体のジュニア期のスポーツ検討会のグループワークでも、これはいいと。参加したくても物理的に距離とか時間の関係で来られないというような子たちとか、前々から上河内委員さんからも話題になっていた、ハードルをいかに下げるかという。思いはあっても一步を踏み出す勇気がないというようなところへ、どういう投げかけをするかというときに、スポーツ団体の皆さんも一様に言っていたのは、「そこがやっぱり一番課題なんだけれど、この出張型で指導者が学校へ行ってくれて、自分の学校の体育館で放課後体験できるとかということになれば、非常にハードルを下げるので、とってもいい方法だ」と、その検討会でも皆さんから意見が出ていました。

出向いてやっていただくには、指導者の問題とか、旅費の問題とか、いろいろなことが発生するとは思いますが、今後でもできる限り検討して、設けていけると有難いと思っています。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

では、上河内教育委員さん、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） 3年目ということでもいろいろ充実してきているなあ、ここに参加した子どもたちが将来またスポーツ愛好者となって、地域で活躍してくれるといいなあというふうに思いました。

そして、全市型競技別スポーツスクールの参加者の内訳として一年生が18人、二年生が51人、三年生が95人ということで、三年生がとても多いんだと気づきました。やはり部活動などが終わってしまっていて、それでも体を動かしたいというニーズがあるのではないかなあというふうに想像しました。

受験シーズンとなって参加者は減少傾向にあるということですが、例えば三年生、受験が前だとしても、体を動かす機会というのが心身の健康に大事だと思うので、こういった機会をより一層利用してもらえるといいなというふうに思いました。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

ほか、よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、またこれから出てくるデータも含めて、ご意見をまたいただければと思っています。

（5）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（5）「文化財保護活用課関係報告事項」。

宮下課長。

◎文化財保護活用課長兼考古博物館長（宮下利彦） 資料3、資料の31ページをご覧いただきたい
と思います。

恒川官衙遺跡につきまして、埋蔵文化財発掘調査の現地説明会のお知らせでございます。

詳しくは、このチラシに書いてあるとおりですので、ご覧をいただきたいと思いますが、
資料の32ページの上段にも書いてありますとおり、古代の役所跡が見られる遺跡につつま
しては、市内・県下においては、座光寺のこの恒川官衙遺跡だけということであります。
今しか見ることのできない役所跡を、ご都合つきましたら、ぜひご参加いただきたいと思
います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） これ以降のことは、まとめてご質問、ご意見いただこうと思います。

（6）公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（6）「公民館関係報告事項」。

ないですね。

（7）文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （7）「文化会館関係報告事項」。

下井館長。

◎文化会館館長（下井善彦） 本日3種類のチラシをお配りしております。

まず、オーケストラと友に音楽祭ですけれども、今年も5月の連休に予定をしていると
いうことで、また視察のほうもご案内いたしますので、今日は説明を省略させていただきます。

それから、紫色のチラシが1枚入っておりますけれども、いい大人形劇フェスタでござ
います。昨年2022は中止ということでした。なので、次回の2023とつないでいく
という意味で、3月に特別公演を開催します。これは、実際には2022のワッペンを販売し
ていますけれども、そういった支えてくれた方々への感謝というような意味も含めており
ます。

それから、もう1つ、新文化会館の関係ですけれども、飯田文化会館のニューズレター
を発行いたしました。これは11月の終わりに第4回の委員会を開催した、その内容をまと
めてございます。教育委員の皆さんにも傍聴いただいておりますので、またご覧をいただ

きたいと思います。

以上です。

(8) 図書館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） はい、それでは続きまして（8）「図書館関係報告事項」。

瀧本館長。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いします。

資料の 33 ページからお願いいたします。

「はじめまして絵本」と「おともだち絵本」のアンケート結果報告をお願いします。

子どもの読書については、発達段階に沿った取組を行っているところですが、乳幼児期には「はじめまして絵本」として7カ月乳児検診のときに絵本を一冊プレゼントしております。また、昨年度、令和3年度から4歳児の「おともだち絵本」プレゼントを始めました。保育園へ出向いて、年中の子どもさんへ絵本をお渡ししています。

これらの事業について、今年度に保育所と認定こども園を通じて、保護者の方にアンケートを行いましたので、結果をご報告いたします。

「はじめまして絵本」アンケートは、685人へ配布したうちの544人に回答をいただきました。

35 ページの間②をご覧くださいますと、回答者のうちの飯田市からプレゼントを受けた方の99.8%の方がプレゼントされた絵本を読んでもらえます。

次の36ページをご覧くださいますと、「プレゼントが絵本を読むきっかけになった」という回答が57.1%ありまして、「以前から読んでいる」という回答の37.0%と合わせますと、94.1%の家庭で絵本を読まれています。そのうちの84.2%の家庭では、読みきかせが週に1から2回行われているということが分かりました。

その同じページの下段のほうのAでは、「プレゼント以前には読みきかせをしていなかった」と推測ができる299人うちの86.6%のご家庭で、「週に1、2回読みきかせをするようになった」となっておりまして、絵本プレゼントが乳幼児の親子の触れ合いと絵本を楽しむ機会の充実に効果を上げていると考えられます。

プレゼントの方法では、現在6冊の中から1冊選んでいただくというふうになっておりますが、きょうだいのある方などから「絵本の選択肢を増やしてほしい」というご意見もありましたので、絵本の種類については見直しを行う必要があると考えております。

39 ページから「おともだち絵本」アンケートをお願いします。

こちらは、年長児の保護者 769 人に配布をしまして 611 人から回答をいただきました。

ページをめくっていただきまして 41 ページの間②をご覧くださいますと、こちらも回答いただいた 611 人のうちの 589 人、99.5%の方がプレゼントされた絵本を読んでもらっています。

同じページの間 5 「プレゼントが絵本を読むきっかけになりましたか」というところですが、こちらをご覧くださいますと、「以前から読んでいる」という方を除きました、絵本の読みかせをしてなかったと推測ができる 260 人のうちの 86.4%の方が、この「おともだち絵本」プレゼントをきっかけに絵本を読むようになったことが分かりまして、次のページの下の方をご覧くださいますと、アというところでそのうちの 73.5%のご家庭で週に 1、2 回読みかせを行っているということが分かります。幼児の家庭で絵本を楽しむ機会の充実に、絵本プレゼントは効果を上げているというふうに考えられます。

コメントいただいた方の中にも「子ども自身でもうれしくて、お気に入りの絵本になった」という回答もたくさんありまして、「お友達が選んだ本やリストにあるほかの本も興味を持つようになった」など、絵本の世界が広がっているという様子も伺うことができました。

また、「プレゼントが図書館を利用するきっかけになった」という回答も「はじめまして絵本」では 139 人、「おともだち絵本」では 75 人ありまして、図書館の利用にもつながっているということが分かりました。

今回、アンケートに回答いただいた方の中の多くのご家庭では、読みかせが行われていることが分かりましたが、このアンケートに回答いただいていないご家庭が 2 割ほどありまして、そのご家庭の状況が分からないということもあります。読まれているご家庭と、そうでないご家庭の差が開いているという可能性もあるというふうにも考えております。

保育所での読みかせをしていただくということも大切であると思っておりますし、プレゼント後も継続して親子で絵本を楽しんでいただくためにも、保育所や分館貸出を通じて、どの子どもさんも定期的におうちへ絵本を持ち帰っていただくという取組を継続して進めていきたいと考えております。

アンケートの報告、以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

（9）美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （9）「美術博物館関係報告事項」。

牧内副館長。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（牧内 功） それでは本日お配りしました黄色い3月「びはくにゅーす」をご覧ください。

3月予定しております美術博物館主催の事業を掲載しておりますのでご覧ください。

1点だけお願いを含めましてお知らせしたいのは、美術博物館の一番最後にあります展示の3月25日から4月16日まで特別展「美術と風土 アーティストが触れた伊那谷展」を開催しますが、この展覧会につきましては、きょうと視覚文化振興財団との共催となりまして、美術博物館ほか、大阪、京都、愛知、もう一つ長野県がありますが、4つの美術館で開催する巡回展になっております。

飯田市美術博物館が、今回の巡回展の一番最初の会場ということでして、3月25日の開幕日には、開会式を行う予定でおりますので、相手の財団と詳細を調整中でございますが、教育委員の皆様にもこの開会式に出席いただきますよう、式の詳細が決まり次第またご案内をしますので、よろしく願いいたします。

以上です。

（10）歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） はい、続きまして「歴史研究所関係報告事項」。

牧内副所長。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（牧内 功） それでは、歴研ニュース122号をご覧ください。

これは3月下旬に刊行予定でございますが、「史料で読む飯田・下伊那の歴史3 山里南信濃のあゆみとくらし」を新刊案内として紹介してございます。

今回の刊行につきましては、歴史研究所の各研究員の方、美術博物館の学芸員も執筆者に加わりまして、南信濃地区に残されておりました旧村時代の役所の文書や個人宅に所蔵されておりました近世から現代までの幅広い歴史史料を調査研究した成果によりまして、この地区の歴史を紹介したものになっております。

内容につきましては、そちらに書いてありますとおり、12本のテーマによって書いておりますが、1つのテーマが6ページ程度にまとまっておりまして、読みやすい形態になっておりますので、多くの方に読んでいただきたいなあと思います。

あとは史料の紹介、歴史研究所の講座の告知等を掲載しておりますので、ご覧いただけ

ればと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

以上、報告事項につきまして、ご質問、ご意見がありましたらお願いをいたします。

三浦委員さん。

◇教育委員（三浦弥生） 質問ではありません。ありがたいなあと思ったのは、図書館の絵本のことです。

乳幼児に絵本ということで「はじめまして絵本」と「おともだち絵本」、配っていただいとということですがけれども、丁寧に事業評価もしていただいて、「ああ、こういった効果もあるんだなあ」というのを改めて数値と文字で見せていただきました。

保護者、親御さんたちの感想も読ませていただいて、目頭が熱くなるような感じもありまして、本当にそういった小さい乳幼児が絵本に触れて、そこでまた親御さんと触れ合えるコミュニケーションが円滑にっていうところは、成長・発達する上で、本当に大切なことだと改めて感じて、本当いい事業していただいているなあということを実感しました。

今後もよろしく願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

さらにありますか。いかがでしょうか。

では、上河内委員さん、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） いいだ人形劇フェスタ特別公演ということで、昨年本当に準備を重ねたのにもかかわらず残念だったわけですがけれども、こうしてまたちょっと熱い思いを届けてくださるといふその思いが届いてきます。

とてもうれしい特別公演かなあと思いますので、ぜひ皆さんに参加してもらえたらいいんじゃないかなあというふうに思いました。

ありがとうございます。

私も持っているので行けたらと思います。

○教育長（熊谷邦千加） ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

貴重なご意見をたくさんいただいてありがとうございます。

(11) 今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加） （11）今後の日程について。

櫻井学校教育課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼総務係長（櫻井英人） 資料3ページをお願いします。

今後の日程につきましては、記載のとおりでございます。

変更になった点があります。21日の教頭会につきましては、教育長と職務代理にご出席いただき、その他の教育委員の皆様はご出席いただかないこととなりました。

3月の定例会は3月14日。また、31日には臨時会を予定しておりますのでご予定をお願いいたします。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

本日予定された議案等はこれで全てとなりますけれども、ご発言等がありますでしょうか。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

日程第10 閉 会

○教育長（熊谷邦千加） 以上をもちまして、2月定例会を終了とさせていただきます。

ありがとうございました。

閉 会 午後4時11分